



自然を活用した子どもの健康づくり

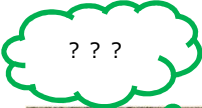
社会福祉子ども学科 福祉子ども学専攻

居崎 時江 助教

【研究分野】 公衆衛生、小児保健、保育、野外教育
 【キーワード】 子ども、運動あそび、健康づくり、自然環境、自然体験
 【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pid=212iza>



研究概要



野外活動や自然体験は、成長期の子どもの心と体の健康的な発達にとって大切です。



幼少期に自然の中で地域の方々の多くの方々と関わりながら思いっきり遊ぶことは自然や地域を愛し、地球・その地球に住む人間・動植物を守ろうとする気持ちを育むことも期待できます。しかし、現代は学校や社会教育施設のプログラムへの参加など意図的でなければこれらの体験を獲得することが難しくなっています。また、家庭の収入など経済的要因でこれらに簡単に参加できない子どもたちも多くいます。これらの課題を**自治体、保育・教育現場、スポーツクラブ**等と一緒に向き合っていきたいと思えます。

研究紹介

- ①**自然体験・自然環境と健康**の関係を探る（幼少期・青年期・成人期・高齢期に分けて）
主な研究方法—疫学的手法
- ②**感染症発生時での自然体験活動の現状、課題**を探る **主な研究方法**—インタビュー手法
- ③Planetary health, One health等、グローバルヘルス（国際保健）の中で**自然と人間の健康**の関係がどのように扱われているのか、日本や各地域の課題にどのようにつなげていくのかを**探る** **主な研究方法**—文献研究・アンケート調査

講座テーマ紹介

- ・自由あそび（Unstructured activity）の意義、方法
- ・子ども（0～6歳）の心と体がときめく運動遊びの工夫・アイデア（室内・屋外両方に対応できます）
- ・自然と子どもとの関わり など



アピールポイントなど

- ・経済状況がよくない家庭の子ども、運動が苦手な子ども、アスリート志向の子ども、アスリート、高齢者など、多様な方々の健康、体力、運動能力の育成に関心を持っています。
- ・**スポーツクラブ**等の乳幼児向けの運動・スポーツ教室で、子どもたちの心と体がときめくために工夫できることを保育現場でのアイデアを提供しながら一緒に考えます（身近な自然、絵本、布など）。地域との関わりを築くために何ができるかを一緒に考えます。
- ・英国での留学（公衆衛生・小児肥満など非感染性疾患（Noncommunicable disease））、WHO Europeでのインターンの経験等があり、欧州を主にした諸外国の研究や保健・教育行政の動向に詳しく、必要に応じて、その長所や短所を見極め比較しながら検証を進めることが出来ます。